

# 研究成果の社会還元加速のための リーンスタートアップ実践プログラムのご案内

研究成果展開事業 大学発新産業創出プログラム(START)  
 <社会還元加速プログラム>

# SCORE

program of  
 Start-up incubation  
 from  
 COre  
 REsearch

社会還元加速プログラム(SCORE)は、大学等の優れた技術シーズをもとにした成長ポテンシャルの高い大学等発ベンチャーの創出を促進するため、実践的学習を受け、ビジネスモデルアイデアの現実化、高度化を行い、起業やSTART「プロジェクト支援型」への申請に繋げ、社会還元を加速させるプログラムです。



## 支援の概要 (平成30年度予定)

支援件数	10~15件程度 ※ブラッシュアップ研修へ進む支援件数。 導入セミナー・ワークショップは原則応募者全員の参加を想定 (詳細裏面参照)
プロジェクト期間	単年度
支援資金	直接経費で3百万円 ※ブラッシュアップ研修へ進んだ課題への支援資金。
募集対象	「研究代表者」と「EL(Entrepreneur Lead)」のチームでの応募 (詳細裏面参照)
対象研究開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>・MVP※を期間内に顧客に一回以上提示可能で、更に安全な顧客評価が可能な技術分野。</li> <li>・顧客評価に対して許認可等が必要な技術分野は対象外。 (※MVP:裏面参照)</li> </ul>

## 受付開始 (下記2回必要となります)

- ・1次申請(セミナー・WS参加申込) : 6月 5日(火)正午締切
- ・2次申請(審査申込) : 6月25日(月)正午締切

### 【お問い合わせ先】

国立研究開発法人科学技術振興機構  
 SCORE募集担当窓口  
 Tel : 03-5214-7054  
 E-mail : start-score@jst.go.jp



<http://www.jst.go.jp/start/score/jigyoindex.html>

# 全国5か所で説明会開催！

※詳しくはHPを参照下さい。

名古屋	5月14日(月)	名古屋大学
大阪	5月15日(火)	大阪イノベーションハブ
福岡	5月18日(金)	九州大学
東京	5月21日(月)	JST東京別館
仙台	5月16日(水)	東北大学

## SCOREの枠組み

- 研究者やアントレプレナー志望者等が、リーンスタートアップ手法等のベンチャー起業・成長に有益な知識を学習します。
- ベンチャーの成長力やリスクマネー獲得の可能性などを高めるため、実用検証可能な最小限の試作物(MVP※)を作製し、想定顧客等の評価を受け、その評価結果をフィードバックしてビジネスモデルを現実化、高度化させます。この一連のループの経験を通して、ベンチャーに必要な能力の向上やネットワーク形成も図ります。

※ MVP: Minimum Viable Products(実用検証可能な最小限の試作物)

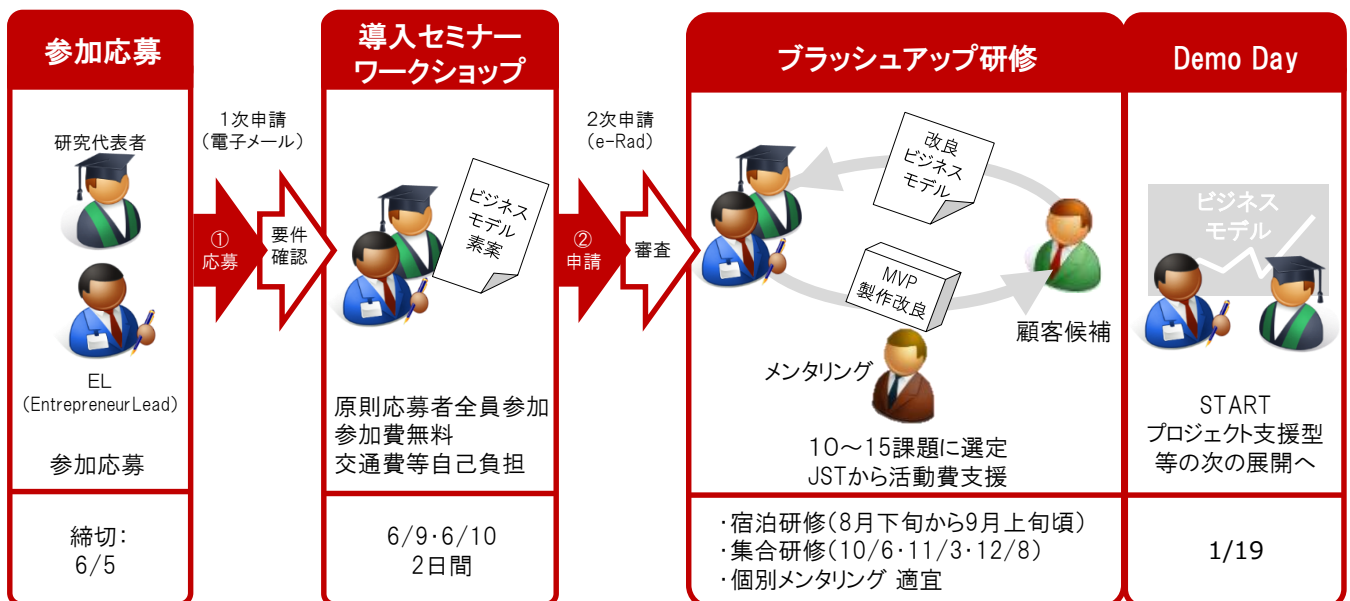
事業仮説の検証を目的として最小限の機能に絞り込んだ試作物等。完全な製品を目指す開発手法と異なり、必須機能が欠如していても事業仮説の検証ができれば許容。試作物そのものではなく、検証する事業仮説を重視。

## 応募の要件(一部)

- 応募時点において、研究代表者が、申請の核となる技術シーズの発明者である、もしくは発明に関わった者であること。なお、シーズとは特許(出願中のものを含む)、プログラム等をいいます。
- 技術シーズは、「JSTが関わった事業により創出されたもの」又は「ベンチャー企業の創出に向けた高い潜在性を有するもの」であること。
- 技術シーズは、本プロジェクトを通じて創出されるベンチャー企業がそれを実施することに関して、その技術シーズの発明者、および、技術シーズが帰属する機関等の同意が得られていること。

## プログラムイメージ

※実際のプログラムは、アントレプレナー教育実施機関提案の企画により変わる場合があります。



### 「研究代表者」

- ・技術シーズを有する者。技術シーズが特許の場合は、その発明者、もしくは発明に関わった者。
- ・日本国内の大学等に所属し、研究開発プロジェクトの実施期間中、中心となってMVPを作製するための研究開発を行い、ELに対して技術協力を惜しみなく提供する者。

### 「EL(Entrepreneur Lead)」

- ・研究代表者の技術を基にした起業化の展開において、ビジネスモデルの仮説の立案や検証等の活動を中心的に行う者。学内外を問わず、研究代表者と二人三脚の協働で活動を行える者を想定。研究代表者が所属する研究室のポスドクや所属大学URAなど、研究機関の了解があれば学生も可。(意欲と決意をもってELの活動に参画できる場合は研究代表者がELを兼ねる事も可)